

2019年度第2四半期決算説明会(2019年10月31日開催)

主な質疑応答の内容(要旨)

※ 説明会開催日(2019年10月31日)時点の情報に基づく内容です

Q. パワードメインの2021年度以降の業績見通しについて教えてください。

A. 次期中期経営計画期間(2021年度以降)の業績は、GTCC、原子力、航空エンジンなどの事業及びアフターサービスを含め堅調に推移すると考えています。スチームパワーの新設工事減少による減収が見込まれていますが、クリーンエネルギーの供給や環境ソリューションなどのビジネスの業績の貢献度も考慮し、今後本格的に事業計画の検討を進めていきます。

Q. 本日、MRJ90の100機購入に関するトランス・ステーツ・ホールディングス社(TSH社)との契約を解消する旨発表しましたが、今後のSpaceJetの取り進めについて教えてください。

A. TSH社はMRJ90をMRJ70に転換する権利を保有していましたが、米国のスコープクローズの課題等もあり、一旦契約を解消することとなりました。今後TSH社とはM100について協議をしていきます。

SpaceJet事業の進捗に関しては、現在、TC取得のための形態に改修した飛行試験機を製造しているところですが、飛行安全を第一に試験項目の順序の入れ替えなど、スケジュールも含め計画の検討を行っているところです。

Q. 2018事業計画推進状況説明資料P26において、2020年度のI&Dメインの売上見通しを500億円上方修正する一方、事業利益見通しを250億円下方修正しています。また、航空・防衛・宇宙メインの売上見通しを500億円上方修正する一方、事業利益見通しは変えていませんが、この背景を教えてください。

A. 当初の計画では、非オーガニック成長分として約4,000億円の売上増加を、各セグメントとは別枠として織り込んでいましたが、これを一旦控除したうえで、実行済・決定済の案件については、各セグメントに振り替えています。例えば、物流機器の米国販社買収はI&Dメインに、CRJ事業の買収は航空・防衛・宇宙メインに組み替えています。一方、事業利益の面では、本事業計画策定時には想定していなかった市況変動の影響等も考慮しています。

以上